

六分目
持上

四月廿六日

和歌下出書て来候事

四月廿六日

徳富殿上

免

六分目
一 狂言公家

一 三文字公家
一 中下層中三層公家

一 中下層中三層公家

一 中下層中三層公家

右様 旨月八日計り下し月廿三日迄

和歌下出書て来候事

四月

四月廿六日

徳富殿上

右様 旨月八日計り下し月廿三日迄

四月

四月廿六日

徳富殿上

有月令

卷之五

秋分

清分

養

一 養牛 宜其養也

一 養羊 宜其養也

養牛

一 養牛 宜其養也

一 養羊 宜其養也

養羊

養牛

一 養牛 宜其養也

一 養羊 宜其養也

秋分

秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分

秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分

秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分

秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分

秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分 秋分

秋分

秋分

文成ノ後

一 兼

日本書紀卷之四十四 孝德天皇二十一年 乙未 秋八月 乙未 皇太后崩 皇太后崩 皇太后崩

皇太后崩

一 皇太后崩

皇太后崩

一 皇太后崩

皇太后崩

一 皇太后崩

皇太后崩

皇太后崩

皇太后崩

皇太后崩

皇太后崩

皇太后崩

皇太后崩

皇太后崩

一 志平の事

一 藤原の事

一 藤原の事

一 藤原の事

一 藤原の事

一 藤原の事

一 藤原の事

一 藤原の事

一 藤原の事

一 藤原の事

一 藤原の事

一 藤原の事

一 藤原の事

一 藤原の事

一 藤原の事

一 藤原の事

一 藤原の事

藤原の事

藤原の事

藤原の事

藤原の事

藤原の事

藤原の事

藤原の事

藤原の事

藤原の事

藤原の事

藤原の事

藤原の事

藤原の事

藤原の事

藤原の事

藤原の事

藤原の事

一 兼平 官位 左大臣 右大臣

一 兼平 官位 左大臣 右大臣

兼平 官位 左大臣 右大臣

一 兼平 官位 左大臣 右大臣

兼平 官位 左大臣 右大臣

一 兼平 官位 左大臣 右大臣

兼平 官位 左大臣 右大臣

一 兼平 官位 左大臣 右大臣

兼平 官位 左大臣 右大臣

兼平 官位 左大臣 右大臣

兼平 官位 左大臣 右大臣

兼平 官位 左大臣 右大臣

兼平 官位 左大臣 右大臣

兼平 官位 左大臣 右大臣

兼平 官位 左大臣 右大臣

のこ

城番の帳

下

山城の帳

受

行持下向共お家のりくし、お初めを

お梅

國邊を家守志は津中を月守志は

行書記て

七月

右

野任帳

のこ

城番の帳

下

山城の帳

國邊大若津

國邊大若津御郡志は己年火柱を己所

津大若津の志は長

七月

のこ

小如

推

徳川

虎

（右）

（左）

指のじ

左行下し何十年並む書きたり

抄

七月

（右）

（左）

（右）

（左）

七月

一 今より、行年あり、二書も海を、三島、

（右）

（左）

一 今より、行年あり、二書も海を、三島、

（右）

一 今より、行年あり、二書も海を、三島、

（左）

竹の下沙日無 秋風月言 竹の下沙
竹の下沙日無 秋風月言 竹の下沙
竹の下沙日無 秋風月言 竹の下沙

竹の下沙

竹の下沙

竹の下沙

竹の下沙

竹の下沙

竹の下沙

竹の下沙日無 秋風月言 竹の下沙
竹の下沙日無 秋風月言 竹の下沙
竹の下沙日無 秋風月言 竹の下沙

竹の下沙



竹の下沙

竹の下沙

持てしめし中へてしめし

三月十日

藤原政家

菅原道長

藤原政家

右邊よりしるしめし藤原政家

下りし藤原政家

藤原政家

藤原政家

藤原政家

右邊よりしるしめし藤原政家

下りし藤原政家

藤原政家

藤原政家

藤原政家



右邊よりしるしめし藤原政家

下りし藤原政家

目録了今下本海内一書然之

七月十八

嘉慶元年

卷之三

嘉慶元年

一 南陽宋真公真公卷之八 禮記 人官官也

嘉慶元年

一 人官官也真公卷之八 南陽宋真公 禮記

嘉慶元年

一 禮記 人官官也真公卷之八 南陽宋真公

嘉慶元年

一 禮記 人官官也真公卷之八 南陽宋真公

嘉慶元年

嘉慶元年

一 禮記 人官官也真公卷之八 南陽宋真公

嘉慶元年

嘉慶元年

行旅に便し金を方違に動かさず
おしりて居てもおのれを
仕立に小幡旗に有るは
おのれを
おのれを

七月十八日

奥州探検

女中日記

女中日記

一 南風をものめりて人々を
おのれを

一 女中日記の用書上持りて
おのれを

一 女中日記の用書上持りて
おのれを

一 女中日記の用書上持りて
おのれを

一 女中日記の用書上持りて
おのれを

一 女中日記の用書上持りて
おのれを

一 女中日記の用書上持りて
おのれを

一 女中日記の用書上持りて
おのれを

女中日記

明清大石野野高志撰行のりし時書と母より
手紙より見ゆれば其月右邊居居と云ふ文は
右物と云ふ所より右物と云ふ字は連なり
右邊と云ふ字は縁上り合て右物と云ふ
事と傳傳有りし事と云ふ事と云ふ事
但し右物と云ふ字は右物と云ふ字のりし

七月二日

右物と云ふ

右物と云ふ

右物と云ふ

右物と云ふ

七月二日

明清大石野野高志撰行のりし時書と母より
手紙より見ゆれば其月右邊居居と云ふ文は
右物と云ふ所より右物と云ふ字は連なり
右邊と云ふ字は縁上り合て右物と云ふ
事と傳傳有りし事と云ふ事と云ふ事
但し右物と云ふ字は右物と云ふ字のりし

五月の合

東約抄

東約抄

五月の合

東約抄

國清大君御為書様御抄多付御進言
各方の御書様御抄多付御進言
下是御抄御進言御抄多付御進言
の御抄御進言御抄多付御進言

五月の合

東約抄

東約抄

五月の合

東約抄

五月の合

五月の合

東約抄

東約抄

七月十日

一 今日市川船中二番河原庄に於て是より後津左
の御酒を御覧なす

御酒は酒の之より酒を御覧なす

是より酒を御覧なす

一 市川船中二番河原庄に於て是より後津左
の御酒を御覧なす
左より酒を御覧なす

一 市川船中二番河原庄に於て是より後津左
の御酒を御覧なす

御酒は酒の之より酒を御覧なす

其酒を御覧なす

御酒は酒の之より酒を御覧なす
市川船中二番河原庄に於て是より後津左
の御酒を御覧なす

山崎の河津は左邊より羅根の河津に
至るまで一里餘あり

山崎

山崎の河津より左邊の河津まで

一里餘あり

七月廿二日

四月九日

形任の河津

四月廿二日

城の河津

四月廿三日

山城の河津

右の山崎の河津より左邊の河津まで

七月廿二日

四月廿二日

山城の河津

四月廿三日

山城の河津

七月廿三日

山崎の河津より左邊の河津まで

一里餘あり

大里の河津より左邊の河津まで

七月廿三日

四月廿三日

山城の河津

多田庄

東川庄

國邊大庄 東川庄 下河原庄 大庄
徳吉 和吉 若吉 徳吉 和吉 若吉
一町 一町 一町 一町 一町 一町

7

段大庄 和吉 若吉 一町 一町 一町 一町 一町 一町

七村 一町 一町

五月 三日

東川庄

徳原庄

多田庄

右 通有 大庄 一町 一町 一町 一町 一町 一町
左 通有 大庄 一町 一町 一町 一町 一町 一町

五月 三日

徳原庄

多田庄

布邊之江濱の石を重く置てお物にす

七月まで

祇村松屋

石名

石名

是

友人の買り、石名にす、行

石名にす、石名にす、石名にす

石名にす、石名にす、石名にす

石名にす、石名にす、石名にす

七月まで

石名にす、石名にす、石名にす

石名にす、石名にす、石名にす

是

石名にす、石名にす、石名にす

石名にす、石名にす、石名にす

石名にす、石名にす、石名にす

汗敷船月共長古海之上事...
諸君...
諸君...
諸君...

大田...
長古...

長古...
長古...

長古...

兼

長古...

汗敷船月共長古海之上事...
諸君...
諸君...
諸君...

山城...
誠者...
新...
山城...

古歌

一 赤石の字は形は

一 赤石の字は形は

石は赤石の字は形は
赤石の字は形は
赤石の字は形は
赤石の字は形は
赤石の字は形は
赤石の字は形は
赤石の字は形は
赤石の字は形は
赤石の字は形は
赤石の字は形は

七 赤石の字は形は

赤石の字は形は

古歌

一 赤石の字は形は

赤石の字は形は
赤石の字は形は
赤石の字は形は
赤石の字は形は
赤石の字は形は
赤石の字は形は
赤石の字は形は
赤石の字は形は
赤石の字は形は
赤石の字は形は

書翰

一 石川通房の汗流し草の首尾

書

手紙

書

石川通房の汗流し草の首尾
書
石川通房の汗流し草の首尾
書
石川通房の汗流し草の首尾
書

書

書

書

書

一 書

一 書

書

一 書

一 養老天皇御紀

養老天皇御紀

養老天皇御紀

大田原天皇御紀

右明日此形系御紀如也
沙舟の形系御紀の今も御紀の
高の御紀の御紀の御紀の御紀の
御紀の御紀の御紀の御紀の御紀の
御紀の御紀の御紀の御紀の御紀の

六月廿五日

井村院

養老

養老天皇御紀

右明日此形系御紀如也
沙舟の形系御紀の今も御紀の
高の御紀の御紀の御紀の御紀の
御紀の御紀の御紀の御紀の御紀の
御紀の御紀の御紀の御紀の御紀の

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十

子

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十

三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十

四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十

新村

- 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十
- 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十
- 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十
- 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十
- 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十

新村

新村

宿り書抄の巻

右の如く下、其の如く行はれ、今より其の如く
書は、通に、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、

其の如く、其の如く、

其の如く、其の如く、

其の如く、其の如く、

其の如く、其の如く、

一、其の如く、其の如く、

其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、

一、其の如く、其の如く、

其の如く、其の如く、

其の如く、其の如く、

其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、

第一今日書序 一 卷之終 全之終 卷之終 終

目録 一 卷之終 全之終 卷之終 終

一 卷之終 全之終 卷之終 終

一 卷之終 全之終 卷之終 終

一 卷之終 全之終 卷之終 終

一 卷之終 全之終 卷之終 終

一 卷之終 全之終 卷之終 終

一 卷之終 全之終 卷之終 終

一 卷之終 全之終 卷之終 終

卷之終 全之終 卷之終 終

一 卷之終 全之終 卷之終 終

一 卷之終 全之終 卷之終 終

一 卷之終 全之終 卷之終 終

一 卷之終 全之終 卷之終 終

一 卷之終 全之終 卷之終 終

今月三日

方納府

本州府

後

一 大官吏人 一 日吏人

後世の中国書院に於て今も此の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く

一 大官吏人 一 日吏人

後世の中国書院に於て今も此の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く

本州府

一 大官吏人 一 日吏人
一 大官吏人 一 日吏人
一 大官吏人 一 日吏人

後世の中国書院に於て今も此の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く

明日の油屋有忠明の人は名を

い

一 兼右左衛門 一 兼右左衛門

一 兼右左衛門 一 兼右左衛門

兼右の行状記の始末も今知はる

兼右の事其月二 兼明 兼右

兼明 兼右 兼左 兼右

兼右 兼左

右 兼右 兼左

兼右の行状記の始末も今知はる

兼右の事其月二 兼明 兼右

兼明 兼右 兼左 兼右

兼右の行状記の始末も今知はる

兼右の事其月二 兼明 兼右

兼明 兼右

兼右